

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4272300247		
法人名	有限会社 カワトタイル		
事業所名	グループホーム よこせ	ユニット名	
所在地	長崎県西海市西海町横瀬郷2762番地2		
自己評価作成日	2020年11月1日	評価結果市町村受理日	2021年2月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do
----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院4-3-7 フローラ薬院2F		
訪問調査日	2020年11月18日	評価確定日	2020年12月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ここ『グループホーム よこせ』は、山や海があり、周りを見渡せば自然に囲まれた静かな場所にあります。そこでの地域環境もとてもよく、地域住民の方々には温かく見守って頂き、時には差し入れを頂いたり、施設の敷地内の環境整備として、花を植えて下さったりと当ホームの基本理念の一文に「共に助け合い共に生きる」とあり、地域と共にある環境の中、利用者様を中心とした家庭的な雰囲気とまごころ込めたケアを大切にさせて頂いております。また、今後も生き生きとした生活支援と自立した生活が一人でも多くの事ができるを目指して日々努力しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

“グループホームよこせ”の理念は「入居者様の人格・人権を尊重し、共に助け合い共に生きる。出会えたことの喜びと、これからの一生を大切にをモットーに地域に開かれたホームを目指し、入居者様が楽しく生活できるように努力します」であり、管理者を中心に職員が結束し、日々の実践に繋げてこられた。コロナ前は横瀬保育所の行事(お店屋さんごっこ等)やホームの畑での芋ほり交流会を行い、西海北小学校との交流、横瀬郷(2区)総会や横瀬郷敬老会、地域自主防災組織会議などに参加していたが、コロナ禍においても引き続き、地域と共に共生社会に向けた交流方法を検討し、地域交流の機会を作っていく予定にしている。日々の生活では、ご利用者の方々がホームの畑の大根やお芋などを収穫し、天ぷら等にして美味しく食べられたり、ご近所の方に洗柿をたくさん頂き、干し柿作りを楽しまれている。ご利用者にとって“ホームは第2の「おうち」”であり、今後も引き続き、家事活動やドライブ、日々のレクなどを増やすと共に、職員個々の更なる役割(特技等)作りをしていく予定である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を共有するために今月の目標として標語をリビングルームに掲げ、日々の実践につなげていると思います。	馴染みのスタッフが多く、結束も強い。新人職員にも理念を説明し、毎月の目標の中に理念や心得の文言を盛り込み、スタッフ全員で実践に繋げている。「共に助け合い共に生きる」と言う理念もあり、ご利用者に役割を担って頂き、窓越しの面会を含めて家族との協力関係も深めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の方との挨拶や畑等のお手伝い頂いたり良好な関係となっていますが、今年度はコロナの影響ですべての行事等が中止となり、残念でなりません。	地域の方がボランティアで、ホームの敷地の草刈りや畑の耕し、芋の苗と苗植え作業をして下さり、地域の方から野菜や果物、スイカ等の差し入れを頂いている。コロナ前は地域の総会や薬師様奉納相撲、横瀬地区元旦マラソンの応援に行かれたり、北小学校との交流等も行われていた。	地道に地域交流を続けてこられたが、コロナ禍で交流の機会が減っている。今後も地域と共に共生社会に向けた取り組みや勉強をできればと願っており、保育園児と窓越しの交流や、ビデオレター交流等の方法を検討していく予定である。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度はコロナの影響でイベントを中止せざるを得ない状況で効果が見えていません。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は新型コロナウイルス感染症対策として文書等にて報告をさせて頂いております。	2019年度の市の実地指導で「委員選考が不十分」との指摘を頂いたが、市の方で再検討頂き、従来通りの開催ができるようになった。日々の取り組みの報告や身体拘束適正委員会も一緒に行い、参加者の方々と情報交換を続けている。コロナ禍は書面会議を行い、電話でお返事を頂いてい	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	新型コロナウイルス感染症の感染対策により、書面又は、電話での相互の連携がなされています。	運営推進会議に市の課長(又は代理の方)が参加して下さり、ホームの取り組みを理解して頂いている。管理者が市を訪問したり、電話で相談し、処遇改善加算やコロナ感染対策のアドバイスを頂いている。2019年度の市の実地指導により、「金銭管理(預かり)は行わない」方向に変更した。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スピーチロック等の内部研修を行ってケアの質の向上に努めております。	2019年の長崎県権利擁護推進養成研修時や身体的拘束適正委員会等で、ホーム内の不適切ケアの振り返りを行い、内部研修も続けている。「身体拘束は絶対にしない」という方針で、スタッフの優しい寄り添い等で穏やかに過ごされる方が多く、ご利用者の行動背景も分析している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ会議等で内部研修を行い、スタッフがストレスを溜めないように業務に努めています。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修を受け、随時発表を行うなどし、スタッフは学びケアに生かせるようにしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居申込時と入居の契約時にご説明をさせて頂き、ご家族様の疑問などもいつでも対応させて頂くように努めております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にはご家屋様も代表として出席頂き要望等を大切に反映させて頂くよう努めております。	コロナ禍は玄関先や窓越しの面会を行い、親しい人との文通も行っている。家族との担当者会議で暮らしぶりの報告を行い、日々の生活や行事等の要望を伺っている。病院受診の同行時に家族と情報交換する方もおられ、「自宅に帰りたい」と言う事で、外泊された方もおられる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に相互の意見を出し合い実施に向け調整や対応を検討して頂いております。	運営者は明るいお人柄で、毎月の会議に参加して下さり、職員のストレスに気を配って下さる。勤務希望や給与、物品購入などの要望を受け止めて下さり、「できること」「できないこと」の説明も丁寧にして下さる。管理者も常にホーム運営とスタッフに気を配り、運営者との情報交換に努めている。	管理者は職員個々の得意な事などを理解している。今後も日々の業務を見直し、職員の更なる役割分担を明確にしていくと共に、レク等を含めた職員個々の特技を発揮していただく予定である。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	土曜・日曜・祝日の出勤等のパートの時給の改善案などの話し合いが実施されました。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の研修等を実施し、学びを得る機会を作り対応しておりますが、今年度はコロナの影響によりリモート研修に参加しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度は、コロナの影響により中止されています。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所当初は、無理強いすることなく、特に気を付けてお声掛けを行い不安にならない様なケアを行っております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	共に利用者様の生活自立支援を行うことの意義等を説明し、施設サービスをご家族様の思い、ご本人の胸の内を知る等の連携作りに対応しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人が入所を希望されてもご本人の思いと環境に違いがあることもあり、なるべく声かけを行い要望を聞き取りを行うように努めております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	互いに助け合う関係を大切に生活援助サービスを展開し、利用者様の立場に立て環境を整えるように努めております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	良いこと悪いことも伝え合うできる事、できないことの理解を得て共にケアについて協力を頂いております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今年度はコロナの影響により、お互いに自粛して頂きながらも工夫しながらご家族様と話しながらか協力頂いております。	ご利用者の生活歴を把握しており、コロナ禍も馴染みの港等にドライブしたり、病院の待合室で馴染みの方と再会されている。コロナ前は地域行事や馴染みの商店、家族とお墓参りや外食に行かれていた。スタッフと自宅訪問し、仏壇の掃除をしたり、馴染みの方がホームを訪問して下さっていた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同志が互いに助け合い、仲良く過ごせるよう、スタッフは利用者様の関わりや個々の性格などを把握することでトラブル無く過ごして頂けるよう努めています。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今年度も1名他の施設に行かれました。ご家族と入所決定まで関わりを持ち相談や支援に努めました。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	基本のアセスメントやパーソン・センタード・ケアを常日頃からスタッフに話し理解を求め、思いに寄り添うケアを共有するように努めております。	入居前に自宅や病院訪問を行い、ご本人と家族の想いを理解するように努めている。意思疎通が困難な方を含め、入居後も時間をかけて、その時々々の想い(喜怒哀楽)や要望に寄り添っている。「みかんが食べたい」「お芋を食べたい」「家族に会いたい」等の要望を叶えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人のお話しやご家族様に聞き取りを行い把握するように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	把握に努めアセスメントに残すようにしております。また、ご家族様との現状の暮らし方を共有できるように努めております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	全スタッフでアセスメントを行っています。評価についてもスタッフ会議で毎回行っています。また、ケアの部分で新しい取り組みがあれば、全員で学習し意義を共有するように努めております。	ご本人と家族の要望を伺い、担当職員が「できる事」「できそうな事」等を記録している。介護支援専門員が計画を作成し、役割(洗濯物たたみ等)、レク、体操、リハビリ等も盛り込まれている。入居後、次第にお元気になられ、歩行できるようになった方もおられ、主治医も評価して下さい。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活日誌・連絡ノートや申し送りで気づきや工夫や実践した結果を全スタッフが内容を共有し統一したケアに努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その方の現状をしっかりと客観的に捉え、どのサービスが適正なのかを検討しています。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	まずは、この地域の皆様の温かさに感謝し、交流を続け、地域住民の一員として、安全で豊かに暮らせるように、この地域資源との共生を目標に取り組んでいます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	原則、ご家族様の受診介助をお願いしていますが、状況に応じてスタッフも同行し、日頃の状態や気づきの情報共有を図り、連携を取り主治医の指示を会議で全員に伝えております。	日々の体調確認を行い、気になる事は家族に連絡し、早期受診している。受診時は主に職員が同行し、日々の体調などを医師に報告し、体調に応じて減薬に繋げる事もできている。体調変化時は家族に同席頂き、医師からの説明を聞いて頂いており、かかりつけ薬局との連携もできている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当ホームには看護師がおらず、かかりつけ医療機関の看護師とスタッフがホームでの生活状況を伝えることで、異常時に相談しやすくできるように心掛けております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関のソーシャルワーカーとの情報の共有を図り、日常生活上のケアポイントを伝えたり、医療的ケアが困難な場合は一旦施設に戻ってもらいケアを行っております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化あるいは施設の移動の検討が妥当と判断された折、入所契約時に同意書を交わしておりますので、ご家族様との協議や意向も大切にしています。さらに地域の他の施設ケアマネとも連携を行っております。	「できるだけ長く、ここで暮らしたい」と希望する方が多いが、往診体制が無く、看護師が勤務しておらず、ホームでの看取り支援はできない事を入居時に説明している。医療ニーズが高い方は適宜医師に相談し、入院ぎりぎりまで家族と協力し、誠心誠意のケアが行われている。歯科医師、歯科衛生士の往診があり、日々の口腔ケアに活かしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアル・スタッフ連絡体制を基に緊急時に対応できるように備えております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身に付けるとともに、地域との協力体制を築いている また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	地域自主防災組織との連携と施設内での災害に対する学習と訓練を重ねていきたいと考えております。今後は、備蓄の充実化を図りたいと思っております。また、施設連絡協議会と市が災害対策の協力体制協定が締結され、今後もできる限りの連携を図ってまいります。	防災チェックを毎日行い、雪対策で貯め水等もしている。毎年11月9日(防災の日)に、消防団や地域の方と夜間想定及び夜間(19時)の訓練を行っている。地域の方も見守りをして下さり、訓練結果を踏まえて意見を頂いている。2020年夏の台風で18時間停電し、備蓄の重要性を痛感した。お米、飲料水、飲料水以外の水、食料(缶詰、即席味噌汁、カップ麺等)、懐中電灯、停電時の補助電源(45分使用可能)等を準備している。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の方一人ひとりの人格・人権を尊重し、その方にあつた対応をするように努めており、振り返りながらケアを実践しています。また、どんなにスタッフに悪口暴言を言われても一旦は受容し、要因の理解を行い、寄り添う介護を行っています。	毎月の目標「笑顔に勝利」等を決め、業務前に基本理念・職員の心得・職員の理念等を復唱している。ケアの仕方や言葉遣い、羞恥心への配慮等を振り返り、日々の業務に活かすようにしている。ご利用者の人格・人権の尊重と共に、「その人らしさ」を大切にされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が自由に訴え発言など出来るように心掛け、寄り添い傾聴を行っております。また外出(外食)理容などご本人の思い、ご家族様の思いを調整し、支援をさせて頂いております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様一人ひとりのペースやその人らしさを大切に、無理強いすることなく支援させて頂いております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	敬老の日にスカーフをプレゼントさせて頂き、とても喜んで頂き、お正月にはお化粧をされたりと、時折のメリハリをつけたサービスを提供させて頂き、スタッフや利用者様・ご家族様の思いを楽しまれています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	パン食が嫌いな方には、ご飯を提供したりと工夫し、食器洗い等のお手伝いを行っています。	ホームの畑のお芋や大根の収穫を一緒に行い、お芋料理も好評である。管理栄養士が作成した献立を基に食事が作られており、ご利用者も“ごぼうそぎ”やツツの皮むき、饅頭作り、漬物作り、干し柿作り、下膳、テーブル拭き等をして下さる。コロナ前は、ご利用者と買い物に行かれていた。	施設長も管理者、職員も食事を大切に考えている。今後も日々の献立内容の栄養バランスやカロリー等の検証方法を検討し、より良い食事内容にしていける予定である。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量、水分の取り方は個々で違いを理解し支援の考え対応しております。また、お菓子や飴などを添え水分を取っていただける様に努めております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科医の協力を得て口腔ケアの質の充実を図っていきたいと思っております。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ひとり一人の排泄パターンに合わせて誘導を行うよう支援を行っております。	下着を着用する方は半数以上で、排泄が自立している方もおられ、パッドの必要性の検討も続けている。排泄感覚や、ご利用者個々のしぐさを察知し、個別のトイレ誘導を行い、陰部清拭は毎朝行っている。希望や体調に応じてホータブルを使用する方もおられる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬ばかりを頼らず、ごぼう茶等で食物より改善できないか取り組んでおります。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴が嫌いな方もいらっしゃいますので、早目にお声掛けを行い希望される日、時間に入浴して頂いております。	お風呂好きな方が多く、湯舟では職員との談笑や歌を楽しみ、菖蒲湯や柚子湯等もされている。できる範囲はご自分で洗って頂き、陰部清拭等は毎日行い、希望に応じて同性介助も行われている。入浴を拒まれる方は無理強いせず、声かけの仕方を工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活状態の見守りの中、変化があれば(室温・バイタル・水分不足・照明の光・便秘等)の適正化を図り安心感を維持できるように努めております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の目的を理解し、症状の変化の確認、薬の変更時など、特に気を付けて、変化があった場合受診日に限らず、主治医に報告を行っております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方に合ったお手伝いや共同生活での役割分担をスタッフで考え、一人ひとりが楽しく過ごせるよう支援しております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年度は、新型コロナウイルス感染症等のおかげで利用者様共に不自由な思いをされた事と思います。	コロナ禍も畑の収穫、日向ぼっこ、近くの公園、港にドライブ、花見等を楽しまれている。コロナ以前は地域のお祭り、地元の大島大橋公園などのドライブと共に、家族と自宅に行き、お仏壇の手入れをされたり、馴染みの商店の特売日に、ご利用者も一緒に砂糖や味噌の買物に行かれていた。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	前年度の実地指導において、サービスの必要性は理解しているが、施設での金銭管理は一切行わない方向となり、立て替え金としての支援を行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望によりご家族様の方とのお電話でお話をされており、難聴の方には、葉書きが届いております。また、お手紙を出される方の支援も行っております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自分が好まれる場所でゆっくりと過ごされています。利用者様の多くは玄関前のソファが好まれております。	玄関のソファで来訪者を笑顔で出迎えて下さる。廊下に芋の収穫風景等の写真を貼り、会話のきっかけになっている。ご利用者同士の関係性に配慮し、リビングのテーブルの配置を工夫し、職員とゆっくり会話をしたり、日々の活動(洗濯たたみ、調理、テーブル拭き等)を一緒に行っている。コトブキ、空気清浄機や加湿器等を増やされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご自分の部屋でゆっくりされたり淋しくなられるとリビングでお話をされたり過ごされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様にご協力を頂きながら、ご自宅でよく使われていた物や馴染みの物を持って来て頂き、落ち着ける空間作りに工夫をすように努めております。	馴染みのタンスやテレビ等を持ち込まれ、家族からの絵葉書や写真、母の日のプレゼント、遺影等を飾られている。ご利用者同士で1つの居室に集まり、ベッドに座って会話を楽しまれており、日々の掃除や換気等も適宜行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所、お風呂の場所、自分の居室が分かるように工夫を行うよう努めています。それでも困難な状況であれば支援を行うように努めております。		